帝塚山大学経済経営学部教授 中嶋航一

レポート1:産学連携のきっかけ

今回の産学連携の授業を担当する、帝塚山大学経済経営学部の中嶋航一と申します。当ホームページに て、その進捗状況と成果、及び課題について、これから報告させていただきます。

今回は最初のレポートということで、まず自己紹介から始めます。学歴は、アメリカの UCLA 経済学部卒業後、テネシー州ナッシュビルにある Vanderbilt University 経済学研究科で経済開発論を学んでPh.D.を取得しています。帝塚山大学での担当講義は、ゼミに加えて「経済開発」、「経済学と株式投資」、「経済学と金融教育」などです。専門は植民地期台湾の経済研究、最近の研究テーマはeラーニングとスマートスピーカーの教育的利用です。なおアニメが好きで『千と千尋の経済学』(アマゾンキンドル版)を3冊も出しています。趣味は珈琲を生豆から買って自家焙煎して飲むことです。また学生さんには「おしゃれな先生」と言われています。

さて今回の産学連携に至る経緯は、たまたま SBI リクイディティ・マーケットの役員さんが、私が出ていたあるテレビ番組をご覧になったのがきっかけです。その役員さんから次のようなメールをいただき、とても嬉しく思いお会いすることにしました。

「日本は、TV のニュース等を通じ、米ドル円をはじめとした為替レートを日に何度も見聞きすることができる、世界でも珍しいほど為替が身近な国といえます。その一方で、金融や税全般に対するリテラシーはきわめて低く、これらの教育が乏しいのもまた実態です。

身近でありながら、同時に国際的な経済活動として経済学にも密接に関わる外国為替取引(FX 取引)を、中嶋教授が行われている実践的な経済学のツールとして活用いただくことで、若者たちの金融リテラシー向上に貢献できるものと考えています。また、FX 取引には危険な取引とのイメージがまれにありますが、レバレッジ、ロスカット、多彩な注文方法等の仕組みについて正しい基礎知識を持ちさえすれば、低コストで簡単にできる金融取引でもあります。まだまだ FX に対する知識が不十分な方も多いなか、そのリテラシーの向上にもぜひ教授のお力をお借りできれば幸いでございます。」

実は今まで、学生さんには「FX トレードはやるな」と教えていました。その理由は、現在は 2011 年の金融庁の規制によりレバレッジが 25 倍に制限されていますが、昔は 400 倍の取引も可能で「ギャンブル化」していたからです。また今でも海外の FX 業者では数百倍のレバレッジをかけることができます。そのためリスク管理やヘッジの方法も知らない学生さんに、手を出してはいけないと注意していたわけです。

しかし逆に考えると、SBI リクイディティ・マーケットの役員さんが言うように、FX 取引のレバレッジのリスクを理解し、ロスカットなどリスク管理の注文方法を学べば、株式投資を補完する大切な投資対象になります。その理由の一つとしてあげられるのは、株式市場で猛威を振るう人工知能やアルゴリズムは、マクロ的な動きを反映する巨大な外国為替市場では限定的になると思うからです。

このような契機があって、11月にSBI リクイディティ・マーケットの森本氏、SBI FX トレードの金森氏が帝塚山大学に来られ、産学連携事業の企画がスタートしました。

次回は私の2回生のゼミ(当時)で実験的に行ったFXトレードの結果を中心に、今回の産学連携授業の全体像をご報告します。

